



生後すぐのひと手間で勝ち組になる！

早いもので、もう師走。今年も残すところ20日！何かと気忙しい毎日でしょうが、晴れた日は夜空を見上げて、満点の星を眺めてみませんか。空を見上げることは、ストレス軽減、精神安定や自律神経が整って睡眠の質が上がるなど、心と体にいい効果があるそうです。

今回は、「北海道酪農技術セミナー2025」の講演のひとつ、『哺乳子牛の栄養学～実践編！～^{*}』からの抜粋で、是非みなさんに試してもらいたい技術を紹介しします。今すぐできて、やればきっと子牛の発育改善につながる技術です。

※講演者の山口鮎美さん（ファーム山口）、上田理沙さん（明治飼糧株）に資料提供いただきました。

哺乳期の発育が生涯生産性を左右する

「哺乳期の栄養の良し悪しが、その後の生涯生産性につながる」という内容の論文が複数報告されています。

要約すると、哺乳期にしっかり栄養をとって発育が良かった牛は、大人になってからも「泌乳能力が高い」、「繁殖成績が良い」、「難産が少ない」、「産子の産まれ落ちが大きい」、など生産性が高い傾向があるということです。

ポイント 哺乳期にしっかり栄養をとることが大事！



そうは言っても、しっかり栄養をとらせるって難しいよな～
飲んでるようでも大きくなれない子もいるし… どうすればいいんだろう？

やっぱり「初乳」ですね。初乳をしっかり飲んで、免疫物質を十分獲得できた子は、病気にかかりにくく、一般的に元気で、いっぱい飲めて発育が良好です。

初乳と移行乳をしっかり飲ませる

初乳中の免疫物質を子牛が吸収できるのは、生後24時間までです。たくさん免疫物質を獲得することが「勝ち」につながります。

そして、最近、注目されているのは、^{いこうにゅう}「移行乳」！
移行乳を積極的に飲ませることが推奨されています。
移行乳には、善玉菌を育てるオリゴ糖、成長ホルモン、抗菌作用のラクトフェリンなどなど、子牛の腸や体の発達に重要な物質が多く含まれています。また、移行乳には免疫物質も残っていて、免疫物質が腸の中で病原体に対するバリアになって働いてくれます。

※移行乳製剤の商品の例：「ヘッドチョイス」

親付けで自然哺乳している場合は、自動的に移行乳も飲んでるので安心ですが、人工哺乳の場合、生後2～14日齢（最低でも7日齢まで）の子牛には代用乳に移行乳製剤^{*}をプラスして哺乳することをおすすめします。初乳を使う場合は、以下を参考にお試しください。

- ・生後2～5日齢：初乳と代用乳を半々
- ・生後6～14日齢：初乳3割、代用乳7割

初乳製剤は高価なので、近くの酪農家さんから初乳を譲ってもらって凍結しておくのも手だね！

ポイント 生後24時間以内にどれだけ初乳を飲めるか

そのためには？

▶▶▶ 次ページへ

注目! 生後すぐの「リッキング」が大事!



リッキング?!

リック (Lick) とは、舌でなめる動作のこと。

分娩後すぐに、親牛が子牛をなめる行動を指します。リッキングの効果は絶大です! リッキングをしっかり行うことで、一秒でも早く哺乳欲を出させ、一秒でも早く初乳を飲み始めることができるので、「生後24時間以内に飲む初乳の量を増やす」ことにつながります。

これだけ重要で欠かせないリッキング! 親牛に任せず、効果的な方法で人がしっかり行い、発育バッチリの勝ち組子牛を育てましょう!!

リッキングの効果

- 全身のマッサージで血液の循環を良くする
- 呼吸、消化管の活動を促進する
- 胎盤の排出、体表温度が上がる
- **哺乳欲が出る**、立ち上がる

メモ



すぐできる! 効果的なリッキング法

- ①子牛が生まれてる! 発見!!
- ②子牛を綺麗な場所に移動!
- ③リッキング

鼻→口→目→耳→首 の順にゴシゴシ
(きれいなタオルに変えて)
へそ→(ヨーチンでへその消毒)
体→足→尻→尾 の順にゴシゴシ
(体の前から後ろに向かって)

和牛なら
20分以上!
しっかりと

おすすめ!
耳の中も拭きます!
やるようになってから
調子が良くなりました!

バスタオル
夏は4~5枚
冬は6~7枚
使います!

以下の子は長めにリッキング
します!
・羊水飲んだ子
・難産の子
・早産の子



ファーム山口の山口結美さん

自然哺乳(親付け)の場合、
このあと親牛に戻してあげましょう

リッキングをやめるタイミング

- ・ヌメヌメした毛がサラサラになる(半乾き)
- ・自力で立ち上がり、上を向き突つく仕草
- ・立たずとも、立とうとして上を向き突つく仕草
- ・体表温度が上がってきた(頸のあたりを触ると分かりやすい)

繁殖サイクルを回してガッチリ! ~見えない儲けをわしづかみ!~



県飼養管理マニュアルのダウンロード

第7回は繁殖牛の選定の際に、体型の見るべきポイントの紹介でした。
今回は、**繁殖育成牛の栄養管理**です。次世代の牛群を担う育成牛は、適正な時期に初回種付ができるような十分な体格づくりが必要です。
牛の発育には下記のような順番があります。発育段階に見合った栄養管理をしましょう。

1~3か月齢

- ・体高が**6cm/月**と、最も伸びる
- ・第1胃の基礎を作る時期
⇒**スターター**が最適!

4~6か月齢

- ・骨格、第1胃が大きく発達
- ・**育成用配合飼料**の給与量を**最大**に
⇒**4kg/日**が目安!

7か月齢~

- ・**脂肪が蓄積しやすくなる**
- ・丈夫な第1胃を作る時期
⇒育成用配合飼料を3.5kgに減らし、**粗飼料中心の給与**



この牛は保留するから、ゆっくり大きくすればいいんだから、育成用配合飼料の量も少なめでいいな!



牛の**発育は順番が決まっています、後から取り戻すことはできません。**
また、発育の段階に応じて必要な栄養成分が異なるので、時期に応じてスターター・育成用配合飼料・粗飼料を使い分けましょう!



特に、**スターターは第1胃の発達=その後の発育に超重要!**
高栄養で子牛のお腹に優しく、替えが効かないんだ。

気になったので、
優良農家に聞いてみました!



Q. 出荷が保留で飼養管理を変えますか?
A. **出荷も保留も大きな差はない**かな。
強い言え、保留する牛は、より脂肪を付けないように、**特に6~7か月以降は粗飼料主体**でしっかり腹を作るんだ。
優良農家の意見は一致!